かるがも

第 34 号

発行所　千葉県こども病院
〒266-0007　千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
http://www. kodomo.umin.jp/

新年度にあたって　ー受信する力についてー

病院長　伊達裕昭

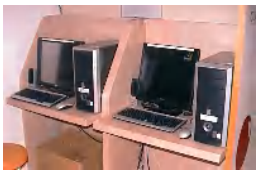
例年になく早く開花した今年の桜は、何とか 4 月 1 日の着任式まで持ちこたえて新入職者を迎えてくれました。桜が散ってしまった後も春らしい陽射しの日が続き、院内の各部署では新年度の活動がスタートしています。

まず、この 4 月の病院内部の主な職員異動についてお知らせいたします。事務局では平成 22 年度から 3 年間にわたり事務局長として当院の運営管理に尽力した石川高弘が転出し、後任として高橋利夫を迎えました。これまで病院局の医師・看護師確保対策室長として県立病院全体の体制整備に係わり、当院の内情も良く理解していることから、新たな視点でこれからの病院運営に参画してもらいます。看護局では副局長の川上節子が循環器病センターに異動して、

後任に救急医療センターから中田正浩が、薬剤部では開院当初からのメンバーである部長の子安一義が定年退職して、後任にがんセンターから松本美奈子が着任しています。ほかにも皆さまに長く慣れ親しんでいただいた多くの職員に異動があったことと思いますが、業務に支障を生じることが無いよう対応に努めます。前任者と同様、どうかよろしくお願い申し上げます。

昨年度は一年間を通して外来に延べ 8 万名、入院に延べ 6 万名の方が来院されました。開設当初に想定した診療機能を上回るこうした状況から、皆さまのご要望に添う対応が充分にできず、運営や院内環境に対してご意見をいただくこともありました。皆さまからのご意見、ご要望も参考にしながら課題を一つずつ解決して、県内小児医療の中心施設として充分な機能を発揮し続けるため、今年度も職員一同で知恵を絞ってまいります。

そうした課題の一つに病院からの情報発信があります。ホームページを開設し、外来ホールに情報コーナーを設置して、定期的に県民公開講座を開くなど、その手段は整えましたが、内容については



まだ皆さまの求めにきめ細かくは応えられていない部分もあると感じています。分かり易い院内表示やご案内も、病院からの大切な情報発信の一つかも知れません。　昨今では、入院中のこども達が病棟で携帯電話やスマホを使って、友達とメールを交換することも稀ではなくなりました。一国の首相もさかんにツィッターでつぶやく時代です。フェースブックやツィッターを介して、自分の思いや行動を「発信する」こと、自分を知ってもらうために積極的に表現することの重要性は増すばかりのようです。そのうち「沈黙は金、雄弁は銀」などということわざは忘れ去られる時代になるのかも知れません。

しかしその一方で、詩人の長田弘さんは「なつかしい時間」（岩波新書）の中で、「受信力の回復を」と題して、「発信することの大事さが強調されればされるほど逆に、いつかすっかり衰えてきているように思えるのが『受信する』ちから」だ、と述べています。外に向かって発信する力が強くなったから受信する力が弱くても済むようになったのか、それとも受信する力が衰えたから発信する力が強くなる必要があったのか。いずれにせよ、「受信する力」がしっかりあってこそ、発信された多くの情報を選別し、咀嚼して自分のものにすることができるのではないでしょうか。

病院という場では、痛い、つらい、苦しいなど、患者さんが発信する情報をいかに早く捉え、対処するかが特に重要です。こども病院という、発信することも容易でないこども達が相手の職場であるからこそ、なお一層、職員には「受信する力」を磨くことを求めていこうと思います。

今年度も皆さまに信頼される病院を目指して、引き続き新たな取り組みと改善に励んでまいります。皆さまのご協力とご支援をお願い申し上げます。

平成 25 年 4 月

海ほたるから望む「東京スカイツリーとゲートブリッジ」